

〔箋注倭名類聚抄二頭面〕按毛詩頤人傳桑扈傳釋名並云頤頸也陸氏蓋依之說文頤項也段玉裁曰

項當作頸略○中神代紀醫心方同訓雄略紀頤項亦同訓谷川氏曰久比久煩美之急呼續世繼云宇

奈之乃久保是也今俗呼煩无乃久煩又少下呼久比須之按久比是頭莖故謂斷人頸爲切久比訓

胡爲之多久比今俗謂頭爲久比誤略○中按說文頸頭莖也陸氏蓋依之釋名頸徑也徑挺而長也

〔伊呂波字類抄久體〕頸 膊クビ 肩クビカタ 頤已上同

〔下學集上支體〕頸項クビニ 義同

〔古事記上〕於是伊邪那岐命拔所御佩之十拳劔斬其子迦具土神之頸。

〔古事記傳五〕頸は美久毘と訓べし和名抄に頸久比頭莖也とあり後世に頸より斬たる首を久

毘は久煩美なり煩美を切れば毘なり續世繼にうなじのく

〔續世繼六ゆみのれ〕むねみちの大納言の次郎におはせし太政大臣伊通のおとゝおはしき○中こ

もりゐたるはくるしからねどよにまじろはまほしきことは人のいたくゑばしのしりたかく

あげたるにうなじのくぼにゆひていでんと思なりなど世ににぬやうにのたまひけり

〔太平記二〕俊基被誅事并助光事

工藤左衛門幕ノ内ニ入テ餘リニ時ノ移リ候ト勸レバ俊基疊紙ヲ取出シ頸ノ回リ押拭ヒ其紙

ヲ推開テ辭世ノ頤ヲ書給フ、 古來一句 無死無生 萬里雲盡 長江水清

筆ヲ閣テ髮ノ髮ヲ摩給フ程コソアレ太刀カゲ後ニ光レバ首ハ前ニ落ケルヲ自ラ抱テ伏給フ、

是ヲ見奉ル助光ガ心ノ中譬テ云ン方モナシサテ泣々死骸ヲ葬シ奉リ空キ遺骨ヲ頸ニ懸形見

ノ御文身ニ副テ泣々京ヘゾ上リケル、

〔陰德太平記六〕大内義興石州發向附大内尼子合戰之事